

修正版

「こんな時どう言う？ークリニックに行く」【台本】(1人Ver.)

収録日:2026/●/● 収録場所:●●

公開日:2026/●/●

パーソナリティ:○○先生(拠点:)

✓ 想定するリスナー層：日本語学習者・生活者

- リスナーの疑問：こんな時、どう言う？
- ラジオ番組の効果①：リスナーの日常の疑問が解決
- ラジオ番組の効果②：日本語のリスニング能力の向上
- リスナーのメリット：日本での生活がより快適になる

✓ 本番組の構成

- オープニング：番組紹介 & BGM(1分)
- 本日のテーマ：「日本の病院」(●分)
- メイン：「クリニックの日本語」(●分)
- エンディング：出演の感謝 & 締め言葉(1分)

【盛り込むフレーズ】

以下、本番組のタイムテーブルです。

✓ 本番組のタイムテーブル

TIME	FLOW(全体の尺:●分)
00:00	■ オープニング：番組紹介 & BGM(1分) □ <u>番組紹介</u> ※イントロは毎回同じことを言う。 M： みなさん、こんにちは！お元気ですか。 今日も「こんな時、どう言う？」が始まりました。 この番組ではテキストには書いていない、レッスンでは出てこない、でもネイ

ティ

ブが毎日普通に使っている日本語をシーン別に毎回お届けします。

・本日のテーマ：日本の病院（●分）

M： 皆さんは日本で「病院」に行ったことがありますか。その時どこが悪くなって、ど

んな病院に行きましたか。←必ず質問から入る。

実は日本には「病院」と言うカテゴリーの中に「病院」と「クリニック」の2種類

あります。「病院」は大きくて色々な病気やケガを診てもらえて、医者や看護師もたくさんいて、入院や手術もできます。、「クリニック」は町の中にある小さな病院で「」とか「」ということもあります。それぞれの「クリニック」では一つの専門的な分野を診察します。病気やケガの種類によって Department の呼び方が違います。Department は日本語で「」と言います。内科 (Internal Medicine)、外科 (Surgery)、小児科 (Pediatrics)、皮膚科 (Dermatology)、眼科 (Ophthalmology)、耳鼻咽喉科 (ENT)、歯科：

Dentistry

などです。

ちょっとした怪我や風邪などのときは近所の「クリニック」に行くと診察してくれ

ます。もしクリニックで治療できない大きな怪我や病気の際は、大きい病院で診

察を受けるための「」を書いてくれます。

では病院に行ったらどうやって診察を受けたらいいのでしょうか。なんと言え

いのでしょうか。

—今日は「病院」や「クリニック」に行った時、どんな手順で診察が進むのか、そして日本語で何と言えいいのか、「受付」「(symptom)の伝え方」「会計」の3つのシチュエーションで必要なフレーズを紹介します。

・メイン：クリニックの日本語（●分）

M： では、早速「こんな時、どう言う？—クリニックの日本語」をいくつか紹介します。

まずは受付（Reception）でのフレーズです。

始めて行く病院では、受付で最初にこう聞いてください。

—「すみません。（はじめての診察）ですが、診察を受けられますか？」

(This is my first time here. Can I see a doctor?)

病院によっては予約について聞かれることがあります。

—「ご予約されましたか。」

もし予約していたら —「はい、しました。」

もし予約していなかったら —「予約はしていません。」と答えます。

そして病院スタッフにこう聞かれます。

—「保険証をお持ちですか？」 (Do you have your health insurance card?)

持っていれば —「はい、あります。」

持っていなければ —「いいえ、ありません。」と答えます。

次にこう言われます。

—「こちらのにご記入をお願いします。」

(Please fill out this medical questionnaire.)

渡された問診表が日本語だけで書かれている時は、

—「英語のはありますか。」と聞いてください。

もしあれば —「こちらです。こちらにご記入ください。」

もしなければ —「すみません。英語のは無いんです。」と言われます。

日本語のものしかない場合は、スマホを使うと自分が分かる言語（Language）に

翻

訳してくれるので便利です。

書くときに日本語で書けない時は

—「英語で書いてもいいですか。」とか「ローマ字でいいですか。」と言ってく

ださい。

そして書き終わったら受付の人に渡して、待合室（Waiting Room）で呼ばれるま

で

待ちます。

では次は（Consultation Room）でのフレーズです。

順番が来ました。名前を呼ばれたら診察室に入ります。

まずお医者さん（Doctor）がこう聞きます。

—「今日はどうされましたか？」

これは「今日はどこが悪くてここに来ましたか」という意味です。

自分の症状を伝えます。

どこかが痛い時は、

—「頭が痛いです。」「おなかが痛いです。」「喉が痛いです。」

などのように「Body Partsが痛いです。」と言います。

するとこう聞かれます。

—「どのくらい痛いですか。」

痛みの強さを「少し痛いです。」「とても痛いです。」などのように答えます。

次に

—「どう痛いですか」

と痛みの種類を聞かれることもあります。

—「ズキズキ=Throbbing pain」、「チクチク=Prickling pain」

のように、痛みを伝える日本語のオノマトペを覚えておくと、とても便利です。

そして熱がある時は、

—「熱があります。38度です。」

と、どのくらい熱があるか言います。

するとお医者さんがこう聞きます。

—「いつからですか。」

その痛みや症状が出た日や時間を言います。

—「昨日からです。」「今日の朝からです。」

つぎにお医者さんが診察をします。

—「ここを押すと痛いですか？」

こう聞かれたら、どこが痛いかを答えてください。

(stethoscope) で診察する時はこう言われます。

—「服をめくって、胸の音を聞かせてください。」

—「大きく息を吸って、吐いてください。」

最後にどの薬を出すか決める時、こう聞かれます。

—「薬のアレルギーはありますか。」

ある場合は —「はい、あります。」と答えて、アレルギーがある薬の名前を
言っ
てください。

ない場合は —「いいえ、ありません。」と答えます。

今日お風呂やシャワーがOKかどうか聞きたい時は、

—「すみません。今日お風呂に入ってもいいですか。」とか、

—「すみません。今日シャワーを浴びてもいいですか。」と聞きます。

もしOKなら —「ええ、いいですよ。」

もしダメなら —「今日はやめておいてください。」とか

—「熱が下がったらいいですよ。」などのように答えてくれま
す。

そして診察が終わるとこう言われます。

—「はい、これで診察は終わりです。おだいじに。」

部屋を出る時は「ありがとうございました。」とお礼を言って出ます。

診察が終わったら会計 (Payment) をします。

—「お会計は〇〇円です。現金、またはクレジットカードが使えます。」
と値段と支払い方法を言ってくれますのでお金を払います。

受付で会計するとレシートと (prescription) をくれます。

それをもって近くの薬局に行って薬をもらってください。

ときどきクリニックで薬を出してくれることもあります。

■エンディングトーク：本日のまとめ& 締め言葉（1分）

今日ご紹介したフレーズはいかがでしたでしょうか。

怪我をしたり風邪を引いたりした時や、急に病院やクリニックに行かなければならなくなった時、自分の症状や痛みを伝えたり、質問したい時は今日紹介したボキャブラリーやフレーズを使えば、伝えたいことや聞きたいことが日本語で言えます。覚えておくと、とても便利ですよ！

では最後に今日のフレーズをもう一度。（←最後に必ず復習タイム）

「すみません。初診ですが、診察を受けられますか？」、「喉が痛いです。」、「昨日からです。」、「今日はシャワーを浴びてもいいですか。」

M：最後まで聞いてくださり、ありがとうございました。（←必ずお礼と締めを入れる）

この番組を聞いて「生活の日本語」「生きた日本語」をたくさん覚えて、ぜひ実際に使ってみてください。

それでは、次回もどうぞお楽しみに！また聞いてくださいね！さようなら～。